

耕作放棄地にセンダン等植栽 奈良県明日香村で バイオマスパワーテクノロジーズ

バイオマスパワーテクノロジーズ(三重県松阪市、北角強社長兼CEO)は、NEDOが進めるNEDOエネルギーの森実証事業として採択された「紀伊半島エリア各地でセンダン・ヤナギ類・ナラ類・カシ類等の育苗・植栽」搬出実証事業を、奈良県明日香村で同村の協力を得て進めている。

10月下旬に同社がNEDO事業で委託している古家園(三重県)や森のエネルギー研究所(東京都)によって、明日香村耕作放棄地にセンダン40本、シダレヤナギ20本、タチヤナギ20本の計80本の試験植栽を行った。同社は今回、奈良県明日香村と共同で取り組んでいる「奈良県明日香村内の放棄竹林等の整備事業」を推進してい



耕作放棄地に広葉樹を植栽

る。また、同社の取り組みの一環としてEF Polymer(沖縄県国頭郡)によるオレンジの皮から生まれた超吸水性エコフレンドリー・ポリマー「EFPolymer」を育成に使用する実証試験も行っている。この適用を進めていくことで、生育を促し苗木品質の安定化、安定供給につなげることを目指す。

バイオマスパワーテクノロジーズは、今後引き続き「エネルギーの森」構想に基づいた整備事業を進める方針だ。